



新得技能協会が包丁研ぎで無料奉仕、新得建設協会が除雪ボランティア ほか

匠の技で切れ味復活

新得技能協会（土屋淳二会長）が3月12日、町公民館で包丁研ぎの無料奉仕を行いました。

この取り組みは、同協会が日頃鍛錬した技術を町民の方々へ還元しようとして毎年実施されています。

今回は昨年より約20本多い129丁の包丁を同協会メンバー12人が砥石や研磨機を使い、一本一本丹念に磨き上げていました。磨き上げられた包丁は、元の切れ味と輝きを取り戻し、持ち主の元へと返されました。

新得技能協会が包丁研ぎで無料奉仕



新得建設協会が除雪ボランティア

新得建設協会（植村高愛会長）の会員約20人が集まり3月8日、ボランティアで除雪と排雪を実施しました。

同協会は、夏には道路清掃や草刈りなどの地域貢献活動も行っており、除排雪ボランティアは今年で7年目となりました。

今回は北生団地の町営住宅全世帯を対象に実施。降り積もった雪を重機で取り除き、物置の上や家の前などの雪は丁寧にスコップで除雪していきましました。

硬く重い雪をきれいに除雪



町野球連盟が町営球場の残雪に融雪剤散布

町野球連盟（岡本勝雄会長）は4月3日、町営球場で融雪剤を散布しました。

これは「協働」の奉仕活動として同連盟に加盟している野球チームで毎年この時期に行っており、今回は12人が参加。フェンス際やフィールドグラウンドに残っている雪にスコップや散布機を使って融雪剤約400キロを散布しました。

町営球場は4月29日オープン予定です。

オープン目指して協働作業



町立レディースファームスクール平成28年度入校式が4月5日、同校で行われ、18歳〜46歳までの第21期研修生14人が酪農、畑作、肉牛の各コースで農業生活をスタートしました。

入校式には、受入農家や農業関係機関、修学生など30人が出席。

第17期修了生の澤居恵利さんが激励の言葉を述べ、第21期研修生を代表して平林範子さんが「14名が互いに助け合って、楽しく1年を過ごしたい」と決意を述べました。

それぞれの思いを胸に1年の実習へ



代表して修了証書を受け取った八幡文雄さん

71人に修了証書を授与第40期寿教室修了式

第40期寿教室の修了式が3月10日、町公民館ふれあいホールで行われました。

修了証書を授与されたのは、今年度の講座を10回以上受講した71人で、そのうち修了証書を通算4回受けた4人に大学バッジが、通算10回の3名に精励賞が、通算15回の2名、20回の1人に特別精励賞が授与されました。

最後に中島実学級委員長が「勉強することで健康でいられる、人生が楽になる」と教室の意義を述べ、修了式は閉幕となりました。

式後には、講話が行われ、大学祭ではそれぞれが学んだ成果が披露されました。



右から廣瀬理事長、森田部長、斉藤教育長

新入学生・園児にプレゼント

商工会女性部・スタンプ協同組合がプレゼント

町商工会女性部（森田美恵子部長）は3月25日、教育長室を訪れ、町内の新入学児童にミニランドセルが付いた鈴、新入園児へLEDライトが光る「ぶじにカエル」の鈴合わせて100個を寄贈しました。この活動は、今年で47回目となります。

また、スタンプ協同組合（廣瀬顕嗣理事長）は小学校、中学校の新入学児童・生徒に「しんとくんカード」91枚（満点400ポイントの半分200ポイント付）を寄贈しました。この活動は、今年で6回目となります。



整理収納片付けのコツを勉強

上佐幌地区で町民大学「マイプラン講座」

上佐幌地区の女性らが、レディースファームスクールで3月14日、町民大学のマイプラン講座を利用した「整理収納講座キッチン編」を受講しました。帯広市出身の整理収納アドバイザー1級の松井香織さんを講師に迎え、モノを減らすコツや収納のポイントなど実用的な話を受講者は真剣に耳を傾けていました。

町民大学マイプラン講座は、町民5人以上が集まり、「こんな講座が聞きたい」といった要望を教育委員会に相談すれば、講師の手配などのお手伝いをします。ぜひ利用してみたいかがでしょうか。

マイプラン講座に関する問い合わせは、教育委員会社会教育係（6410532）まで。



大学の知恵を活用した取り組み

「田楽連携プロジェクト」札幌大学小山教授が講義

観光協会の理事を対象とした観光振興策に向けた講義が3月7日、札幌大学地域共創学群地域創生専攻の小山茂教授を招いて行われました。これは国の地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を受け、新得町と厚真町が札幌大学との共同事業として、大学の知的資源の活用や学生による町内企業でのインターンシップなどを通して、地方での就職を視野に入れてもらう「田楽連携プロジェクト」の一環。2月には、学生らが新得物産やサホリリゾートなどでインターンシップを行いました。

町では今後、札幌大学の知恵や人材を活かして、諸問題の解決や都会からの若者などの流入を目指すこととしています。